



酒田港中長期構想

～北前酒田湊のKOEKI(交易&公益)好循環～

2019年3月

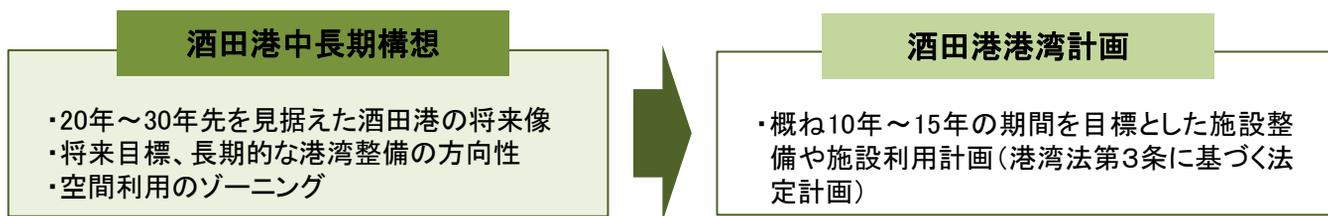
目次

はじめに	1
第1章 酒田港の目指すべき方向性と施策	2
第2章 実現に向けた取組み	5
第3章 中長期的な空間利用のゾーニング	18
資料 施策の展開イメージ	19



■背景

- 酒田港は、山形県唯一の重要港湾であり、北前船交易の時代から賑わった歴史ある港で、山形県の経済・社会の発展とともに成長してきました。
- 近年は、人口減少、世界経済のグローバル化、エネルギーの需給動向、外航クルーズ船の急増など、環境が大きく変化しています。さらに、平成23年の東日本大震災を経て、防災対策も急務となっています。
- 国土交通省が平成30年に策定した港湾の中長期政策「PORT2030」を踏まえて、近年の環境変化に対応すると共に、更なる地域の発展に向けて、20年から30年先を見据えた酒田港の将来像を中長期構想として取りまとめました。今後、この中長期構想の実現に向け、施設整備計画となる酒田港港湾計画を改訂し、港湾整備を進めていきます。



■酒田港中長期構想検討委員会

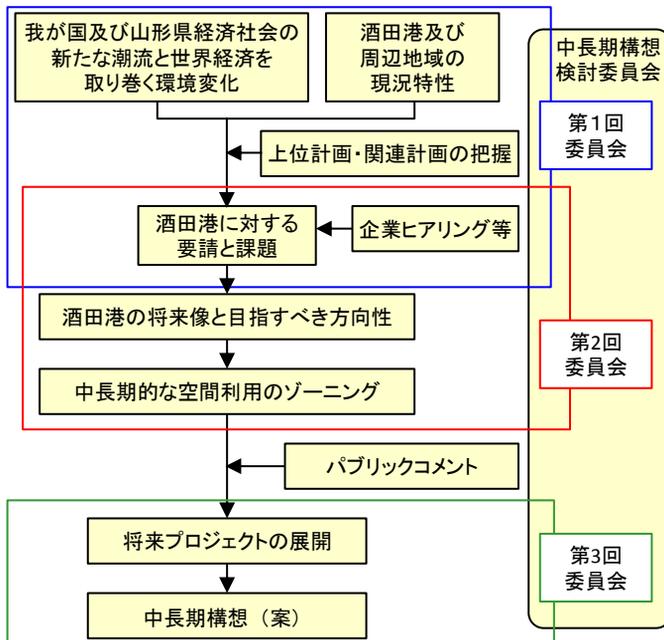
- 酒田港の将来像の検討に関し、学識経験者を中心とした専門的な意見及び地元関係者、港湾関係者など地域の多様な意見を反映するため酒田港中長期構想検討委員会を設置し検討を行いました。

検討の経過

全体スケジュール

H29年度	3月	第1回委員会・幹事会(合同) 3/29開催 ・酒田港中長期構想の検討の進め方について ・酒田港及び周辺地域の現況特性について ・酒田港に対する要請と課題について① など	環境 アセス 港湾 計画 検討
	9月	第2回幹事会 9/10開催	
	10月	第2回委員会 10/19開催 ・酒田港に対する要請と課題について② ・果たすべき役割と将来像について ・中長期的な空間利用のゾーニング など	
H30年度	12月	パブリックコメント 12/19-1/18	
	2月	第3回幹事会 2/5開催	
	3月	第3回委員会 3/8開催 ・中長期構想(案)について	
		中長期構想策定	
H31年度	9月	山形県地方港湾審議会	
	11月	(国土交通省)交通政策審議会港湾分科会 [港湾計画改訂](予定)	

委員会検討フロー



第1章 酒田港の目指すべき方向性と施策

1. 酒田港を取り巻く環境変化・問題

酒田港中長期構想を策定する上での前提条件として、我が国及び山形県を取り巻く環境変化や問題を整理しました。

■ 我が国を取り巻く世界情勢の変化・問題

世界経済のグローバル化の進展

- ・2000年代当初の中国をはじめとした新興国・途上国の成長が加速し、さらに今後は、インドやASEAN10の成長が予測されている。
- ・シベリア鉄道、北極海航路の利用等、輸送環境の変化が期待される。
- ・関税等の貿易障壁の削減・撤廃に伴う国際貿易取引が増加している。
- ・輸出市場においては、付加価値が高く、競争力のある商品が求められている。

東南アジア・南アジアへの生産拠点等の南下

- ・日本企業の生産拠点は東アジアから東南アジア諸国へシフトしつつあり、長期的には南アジア等へ南下していくと考えられる。
- ・生産工程の分散化が進むことによる部品供給等のサプライチェーンの確保が求められている。

リサイクル資源を巡る動向の変化

- ・リサイクル資源を巡り、中国の資源ごみ輸入規制、鉄スクラップ資源の需要地の遠隔地化の動向に変化が生じている。
- ・輸出相手国の需要に応じたリサイクル資源の有価物化や、輸出先の遠隔化による大型船舶に対応した施設整備等が求められている。

■ 山形県(背後圏)を取り巻く環境変化・問題

人口減少

- ・「酒田港中長期構想」を描く2040年頃には、日本の人口は約15%、山形県は約25%減少する見通しである。(2015年比、出典:日本の地域別将来推計人口、国立社会保障・人口問題研究所)
- ・税収の減少、人材の不足など、地域の活力低下が懸念される。

コンテナ貨物自県港湾利用率の低迷

- ・山形県内で生産・消費されるコンテナ貨物が酒田港を利用して輸出入される割合「自県港湾利用率」は約23%と低い。(出典:平成25年度全国輸出入コンテナ貨物流動調査、国土交通省)

道路網の整備・進展

- ・山形県内の高速道路や高規格幹線道路等は順次整備されており、酒田港へのアクセス時間が短縮されるなどの利便性や信頼性が向上する見通しである。
- ・重要物流道路の指定と道路整備により、国際海上コンテナ車等の安定的な輸送が確保され、物流の生産性が向上する見通しである。

農林水産物・食品の輸出拡大の動き

- ・農林水産省は、2019年までに輸出額の1兆円規模への拡大を掲げている。
- ・山形県は県産品の輸出拡大を積極的に進めている。(出典:山形県国際戦略 2015.3)
- ・他県との競合が懸念されるため、付加価値が高く、競争力のある商品が求められている。

エネルギー需給動向の変化

- ・政府見通しでは、電源構成に占める再生可能エネルギーの割合を拡大する方針である。(出典:長期エネルギー需給見通し、H27.7経済産業省)
- ・山形県でも「山形県エネルギー戦略」による再生可能エネルギーの導入促進に向けた取組みを進めている。
- ・風力、太陽光などのエネルギー源の多様化に伴い、メンテナンス需要を含めた資機材の受け入れ機能が不足している。

外国人旅行者と訪日クルーズ旅客の急増

- ・訪日クルーズ旅客数は右肩上がりに増加している。
- ・山形県における外国人旅行者数も増加傾向にある。

増加する大規模災害と港湾施設の老朽化

- ・大規模地震やそれに伴う巨大津波の発生が懸念されている。豪雨・台風・高潮等の激甚化が見られるなど、日本列島の自然災害リスクが益々高まっている。
- ・酒田港の供用後50年以上の岸壁の割合は、全国値よりも高いなど、港湾施設の老朽化が進行している。
- ・ソフト面、ハード面において、現在の状況と、求められている安全・安心の確保に乖離が生じている。

2. 酒田港中長期構想の基本理念

我が国及び山形県を取り巻く環境の変化や酒田の特性等を踏まえ、酒田港の中長期的な方向性となる基本理念は次のとおりです。

基本理念

～北前酒田湊のKOEKI（交易&公益）好循環～

酒田港の将来像

酒田に根付いてきた公益の精神は、人を集め、物を動かし、交易を広げるという好循環を生み出し、山形の繁栄の礎となっており、現在も物流の拡大や観光客の増加などに繋がっている。酒田港はこの精神を引継ぎ将来にわたり好循環を持続し、対岸諸国さらにはASEAN諸国との交流拡大の取組みを通じて新たな好循環を生み出し、国内はもとより国際社会に貢献する『国際公益拠点港』を目指す。

「公益」の精神は地域の誇りとして根付いている

■ 酒田の特性

交易都市

- 最上川舟運によって、米、紅花の移出拠点として繁栄
- 北前船交易の寄港地として京文化が酒田へ移入
- 交易により「鎧屋」、「本間家」などの豪商が誕生

公益の精神

- 本間家をはじめとした豪商による公益投資（公共事業、財政再建支援、慈善事業、救済事業、育英事業等）
- 交易で得た利益を公益事業に拠出、地域に還元



最上川舟運
(最上川の主な河岸、船着場)
※河岸等の位置は「山形県史・要覧」より

3. 酒田港の目指すべき方向性と施策

「北前酒田湊のKOEKI(交易&公益)好循環」という基本理念に基づき、酒田港の目指すべき方向性を整理しました。酒田港では、その方向性を実現するため、各施策に取り組むこととします。

基本理念 ～北前酒田湊のKOEKI(交易&公益)好循環～

